

適切に表現したり、正確に理解したりする力の育成

～読む力を育てる言語活動の充実～

埴町立埴小学校 (代表) 校長 鈴木 雅人 教諭 近藤 靖子

1 研究の趣旨

「適切に表現する力」「正確に理解する力」を育てるために、まず、子どもたちが「読みたい、考えたい、伝えたい」と意欲的に取り組めるような授業の改善を行いたいと考えた。本校の子どもたちは、素直で授業にも一生懸命取り組んでいるが、やや受け身の姿勢が多く見られ、読書や言語活動などの経験にも大きな差がある。そのため、身に付けさせたい力に合った言語活動を位置づけたり、読みを深めるために、考えをつなぐことを意識して授業を進めたりしながら、学習意欲を継続させ、子どもたちが主体的に学習に取り組むことができるように授業研究を行った。

研究仮説

国語科の授業において、一人一人の子どもの学びの様子を把握しながら、概要で述べる4つの視点を大切に学習活動を工夫していけば、子どもたちの学習への意欲が高まり、読む力を高めることができるであろう。

2 研究の概要

(1) 適切に表現し、正確に理解するための学習活動の工夫

- ① 子どもの主体的な学びが生まれる単元構想
 - ・ 学びを共有し、考えを深めるICTの活用
 - ・ 単元最後の言語活動を見通した単元構想の工夫
 - ・ 子どもの学習意欲を維持する単元に合った言語活動の設定
- ② 子どもたちの体験や経験から生まれてくる読みの広がりや深まりの支援の在り方
 - ・ 一人一人の考えを共有し、考えをつないでいくための話合いの工夫
 - ・ 子どもたちの考えをゆさぶり、深く考えさせるための主発問の工夫
- ③ 学習のふり返りをする場の確保と充実
 - ・ 学習したことを生かして、まとめにつながる工夫
- ④ 一人一人の学びに寄り添い、実態に合わせた目標を達成するための学習過程の工夫
 - ・ 特別支援学級における一人一人の子どもに寄り添った指導

(2) 授業づくりの手立て

- ① 可視化・・・思考過程を可視化して、考えを共有しやすくする。
- ② 共有化・・・お互いの考えを伝え合い、考えをより深めたり足りない部分を補ったりする。
- ③ 焦点化・・・身に付けさせたい力を明確にして、シンプルな学習活動・内容にしていく。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① 単元の目標を達成するために、身に付けさせたい力に合った言語活動を位置づけた。単元を見通して、目的意識をもった学びが展開され、子どもたちが能動的に学習する姿が多く見られた。
- ② 板書計画を授業案に位置づけ、模擬授業も行ってより構造的な板書を目指した。音声のやりとりだけでなく、子どもの考えのつながりを見えるようにすることで、学びを深めることができた。
- ③ 一時間のねらいを明確にし、発問を吟味して子どもたちに問うことで話し合いが焦点化され、子どもの読みを深めることができた。全員で学習するという意識も高まってきている。

(2) 今後の課題

- ① 授業研究を通して『学びに向かう力』の大切さを改めて感じた。「やってみたい」という意欲にとどまらず、難しくても粘り強く考え続ける力や考えたことを表現する力も高めていきたい。
- ② 学習したことを定着させるために、まとめの時間に「何がわかったか」を自分の言葉で書くことを続けていきたい。更に、子どもたち一人一人には、自分の目標に向かって見通しを持って学習する力も育てていきたいと考える。